

平成31年度・本年度調査で明らかになった課題が改善されているか確認しましょう。

平成31年度調査問題の正答率・無解答率より

課題の見られた問題の趣旨と結果

※数値は**県平均**(全国平均)

・「平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校英語」 P.31 P.45 P.62
 ・「平成31年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校英語」 P.23 P.34 P.49

4	聞いた内容について適切に応じる	正答率: 7.1% (7.6%)	無解答率: 42.2% (42.3%)
8	読んだ内容について適切に応じる	正答率: 11.8% (10.9%)	無解答率: 24.9% (27.9%)
10	テーマについて、まとまりのある文章を書く	正答率: 2.4% (1.8%)	無解答率: 6.9% (8.3%)

令和3年度児童生徒・学校質問紙調査の回答状況より

児童生徒質問紙62: 5年生まで[1,2年生のとき]に受けた英語の授業では、英語で[話したり書いたりして、]自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。

学校質問紙61: 調査対象学年の児童[生徒]に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身[話したり書いたりして、生徒自身が互い]の考えや気持ちを伝え合う(対話的な)活動に取り組みましたか。

「当てはまる」と回答した児童生徒 ・ 「よく行った」と回答した学校の割合 ※**自校の結果を記入しましょう。**

	小・全国	小・岐阜県	中・全国	中・岐阜県	自校
児童生徒(A)	39.2%	37.2%	30.5%	34.1%	%
学校(B)	45.4%	49.5%	45.0%	58.9%	回答
差(A-B)	-6.2%	-12.3%	-14.5%	-24.8%	

教員は指導したつもりでも、子どもたちは...

相手(話し手・書き手)の意図を理解し、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図りましょう。

課題を解決するための学習過程(例)

「聞いて(読んで)把握した内容について、適切に応じることができる力」を育成するための学習過程

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、学習の見通しをもつ。
2. 英語を聞き(読み)、応答すべきことを捉える。
3. 考えや情報などを整理し、表現する。
4. 考えや情報などを再整理し、表現を改善する。
5. 学んだことを言語活動で再び活用し、学習を振り返る。



具体的な指導事例(指導計画、授業動画)を見ることができます

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導資料 解説動画→
 令和3年4月 国立教育政策研究所教育課程研究センター
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouisyryou/eigo/r02.html>



Listening / Reading → Speaking / Writing

指導改善のポイント

- ・ 児童生徒が挑戦したいと思うコミュニケーションの目的や場面、状況などを設定します。
- ・ 「聞いた/読んだことを基にして話す/書く」といった複数の領域を統合した言語活動を繰り返しながら、表現内容の適切さや英語使用の正確さを高めます。
- ・ 「把握した内容について、適切に応じることができる力」が身に付いたか確認するため、学んだことを再度活用する場面を設定します。その際、児童生徒が自身の学びや変容を自覚できるように支援することが大切です。